

公開実用 昭和 59— 12727

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭59—127276

⑬ Int. Cl.³
H 05 K 5/02

識別記号

庁内整理番号
7216—5 F

⑭ 公開 昭和59年(1984) 8 月27日

審査請求 有

(全 頁)

⑮ 音響機器用レシーバーコードが埋設されたバンド

⑯ 考 案 者 キル・タイ・クウォン
大韓民国ソウル・グローーク・
ガリボン1—ドン125—5

⑰ 実 願 昭58—48001

⑰ 出 願 人 キル・タイ・クウォン
大韓民国・ソウル・グローーク
・ガリボン1—ドン125—5

⑱ 出 願 昭58(1983) 3 月31日

優先権主張 ⑲ 1983年 2 月16日 ⑳ 韓国(K R)
㉑ 1391/1983

㉒ 代 理 人 弁理士 奥山尚男 外 2 名



明

細

書

1. 考案の名称

音響機器用レーザーコードが埋設された
バンド

2. 実用新案登録請求の範囲

- 1) 音響機器用ケースのにないひも又は下衣用
にないひも等のにないひも型に構成されたバ
ンド2の一侧部に上・下端にそれぞれコネク
ター4とジャック5が連結されたコード3を
長方向に埋設するのであるが、コネクター4
はバンド2の中間部表面に固定取付けてレシ
ーバーに付いているコードを連結し得るよう
にし、ジャック5がついているコード3の下
端部は適当な長さに露出させて音響機器に連
結し得るようにした音響機器用レーザーコ
ードが埋設されたバンド。

- 2) 第1項において、バンド2を既存のバック

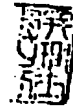
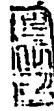


にないひも14等に取り付けられるように複数個の挟持片12を一側面に設けたバンド2で構成した音響機器用レシーバーコードが埋設されたバンド。

3. 考案の詳細な説明

本考案は小型ラジオやテープレコーダーのような携帯用音響機器のレシーバーコードを埋設したにないひも型バンドに関するもので、更に具体的に説明すると、直接にないひもで使用するか、又は既存のハンドバッグにないひも等に取り付けて使用し得るように形成されたバンドに適正な長さのコードを長方向に埋設し、該コードの一端にはコネクタを連結してレシーバーと連結し得るようにし、上記コードの他の一端にはジャックを連結して音響機器と連結し得るようにした音響機器用レシーバーコードが埋設されたにないひもバンドに関する。

最近、登山、釣り、又は散策の時、其他町を歩行する時はもちろん、大衆の集まる屋内外の



場所において音響機器を携帯、イヤホンとかヘッドホンのレシーバーを使用して放送を聴取したり、音楽を鑑賞する行為が広く行われている。

而して、このように音響機器を携帯する場合、普通音響機器を腰につけるかポケットの中に入れるかまたはハンドバッグ等に入れて携帯するのであるが、この場合、携えた音響機器とレシーバー間を連結するレシーバーコードが長く垂れ下つた状態で外部に露出するようになつていて、外観上見にくいばかりでなく、引つ掛かつて行動にも不便、且つ不自然であり、また注意しないと他人によりコードが引つ掛かつてレシーバーが外れる心配がある。

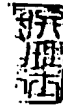
本考案は、このような点を勘案して携帯用音響機器のレシーバーコードをにないひも型に構成して、簡単に着用できるようにしたもので、本考案の実施例を添付した図面によつて詳細に説明すれば次の通りである。

第1図は本考案のバンドを携帯用音響機器ケ



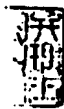
ースのにないひもに利用した実施例を示すもので、音響機器ケース 1 ににないひもで取り付けべきバンド 2 の一側半部に適当な長さのコード 3 を埋設してその上端はバンド 2 の中間部表面に取り付け固定されたコネクター 4 に連結し、下端はバンド 2 の下端外部に露出させてその先の部分に音響機器に連結するためのジャック 5 を連結したもので、これを使用するに際しては、音響機器を内蔵したケース 1 のバンド 2 を上衣の内部、または外部の肩にひっかけて音響機器を携帯し、レシーバー 6 についている短いコード 7 の先のコネクター 8 を上記バンド 2 のコネクター 4 に連結した後、レシーバー 6 を耳に着用して音響を聴取するようになるものである。

また、第 2 図は本考案バンドを下衣用にないひもで利用した例を示しているもので、両端にクリップ 9 を設置して下衣用にないひもとして使用することができるように形成した一字形または X 字形のバンド 2 に上述した例におけると同じような方法でコネクター 4 とジャック 5 が



連結されたコード3を埋設してなるものにして、これを使用するにおいては、第6図(a)に図示したように音響機器10を腰に着け、バンド2を通常の下衣のにないひもと同じ方法で肩にひつけてレシーバーコード3の下端ジャック5を腰に着けた音響機器10に挿しこんで連結した後、レシーバー6のコード7についているコネクター8を上記バンド2のコネクター4に接続連結して使用する。尚、バンド2の下端部近くに第2図(a)に示したように小型コードケース11を設けて音響機器を使用しない時にはバンド2下端部に露出されているコード3の端部を上記コードケース11内に入れておくと簡便である。

以上の例は本考案バンドをにないひも自体で利用した例を示したものであるが、第3図はハンドバッグ等のにないひもに簡単に取り付け得るように構成した例を示したものである。つまり、適当な長さのバンド2に前述した例にけると同じように、コード3を埋設してその上端に連結したコネクター4はバンド2上端表面に



固定し、コード 3 下端は露出させてジャック 5 を連結してバンド 2' の一側面には数個の挟持片 12 を一定間隔に設置してバンド 2' をハンドバッグ 13 のにないひも 14 に挟持片 12 を利用して取り付け得るようにしたもので、これを使用する時には、第 6 図 (b) に示したようにハンドバッグ 13 内に音響機器 10 を入れてにないひも 14 にバンド 2' を取り付けした後、にないひも 14 を肩にひっかけてレシーバー 6 を着用し、そのレシーバー 6 のコード 7 についているコネクター 8 をバンド 2' のコネクター 4 に連結して音響を聴取することができる。

上述のように本考案は、音響機器ケースのにないひもとかカバンのにないひも、または下衣用のにないひもを利用して携帯用音響機器のレシーバーコードをにないひも式に着用し得るようにしたものであるから、音響機器を携帯使用の際、コードが外部に長く露出されないので内部に隠蔽されるので見にくくないばかりでなく、引つ掛かることもなく行動が自由であり、また



他人によつてレシーバーが外れる心配もなく、心易く音響を聴取することができて、町を歩く時でも或いは屋内外の大衆が居る場所でも、他人の視線を意識することなく音響機器を携帯使用する効果があるものである。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案バンドを携帯用音響機器ケースのにないひもで利用した例を示す斜視図。

第2図は本考案バンドを下衣用にないひもで利用した例を示す斜視図にして、

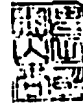
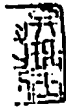
(a) は一字形にないひもの例を示すもの。

(b) はX字形にないひもの例を示したものである。

第3図は本考案を携帯用バッグのにないひもに取り付けて使用し得るように構成した例を示す斜視図。

第4図は、第1, 2図のA-A線拡大断面図。

第5図は、第3図のバンドをにないひもに取



り付けた状態の拡大断面図。

第 6 図は、本考案の使用状態図にして、

(a) は第 2 図(a)に示したバンドの使用状態図。

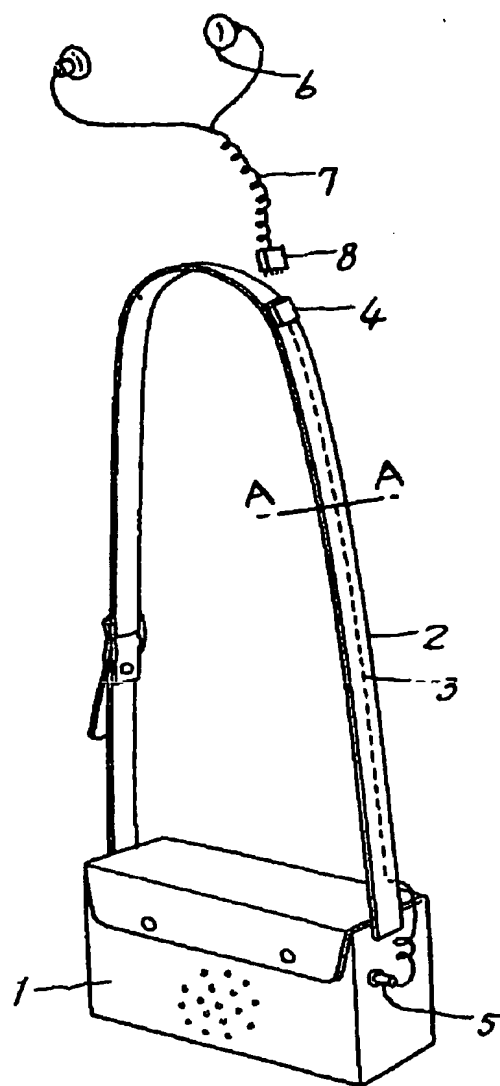
(b) は第 3 図に示したバンドの使用状態図。

図面の主要部分についての符号の説明

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 …… 音響機器ケース、 | 2, 2' …… バンド、 |
| 3, 7 …… コード、 | 4, 8 …… コネクター、 |
| 5 …… ジャック、 | 6 …… レシーバー、 |
| 11 …… コードケース、 | 12 …… 挟持片。 |

58-113

43

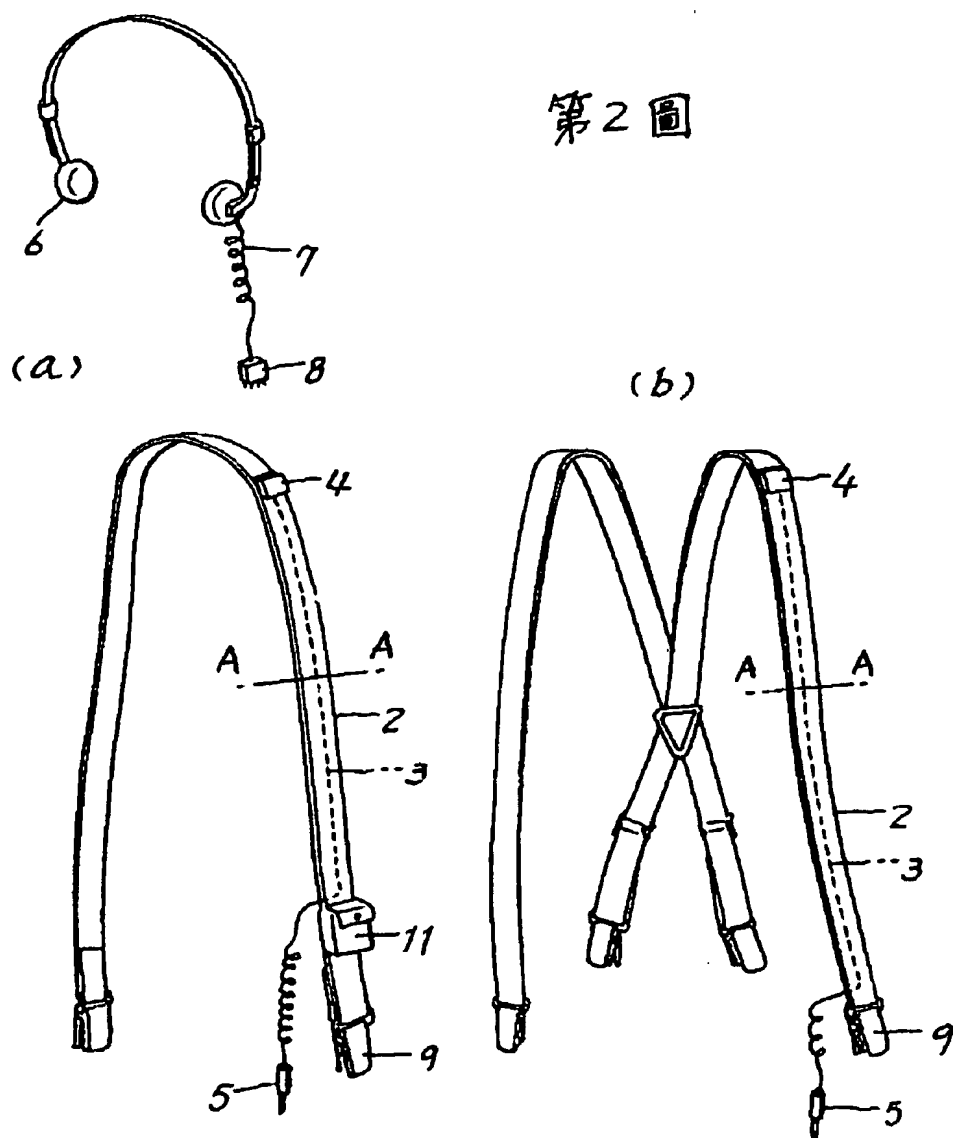


第1圖

661

実開 59-12727 6

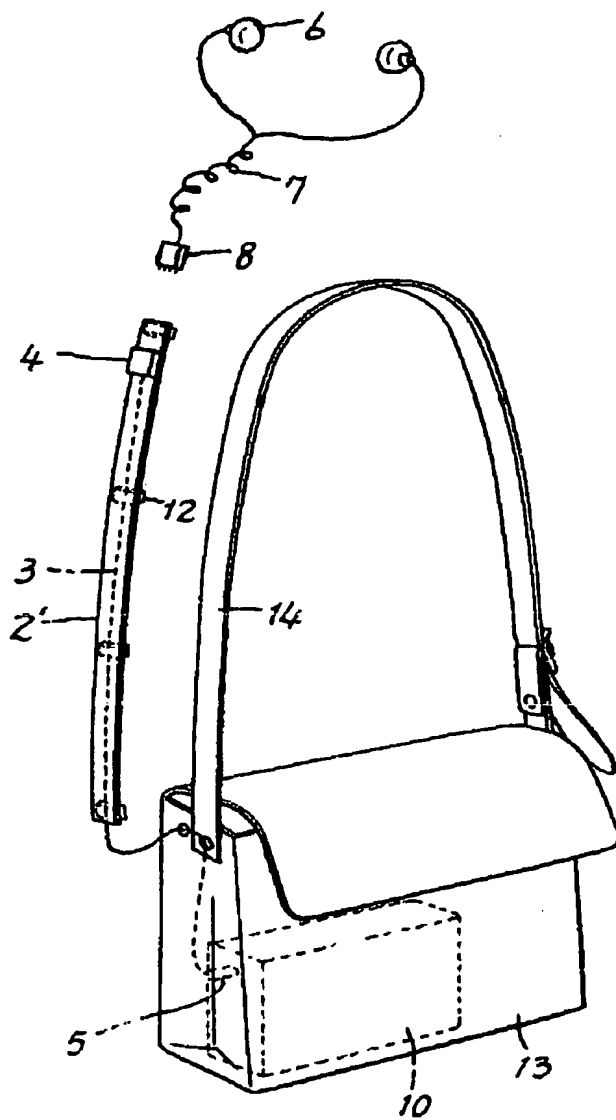
第2圖



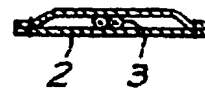
1562

実開 59-127276

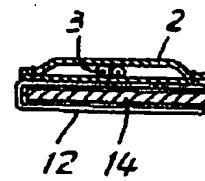
第3圖



第4圖



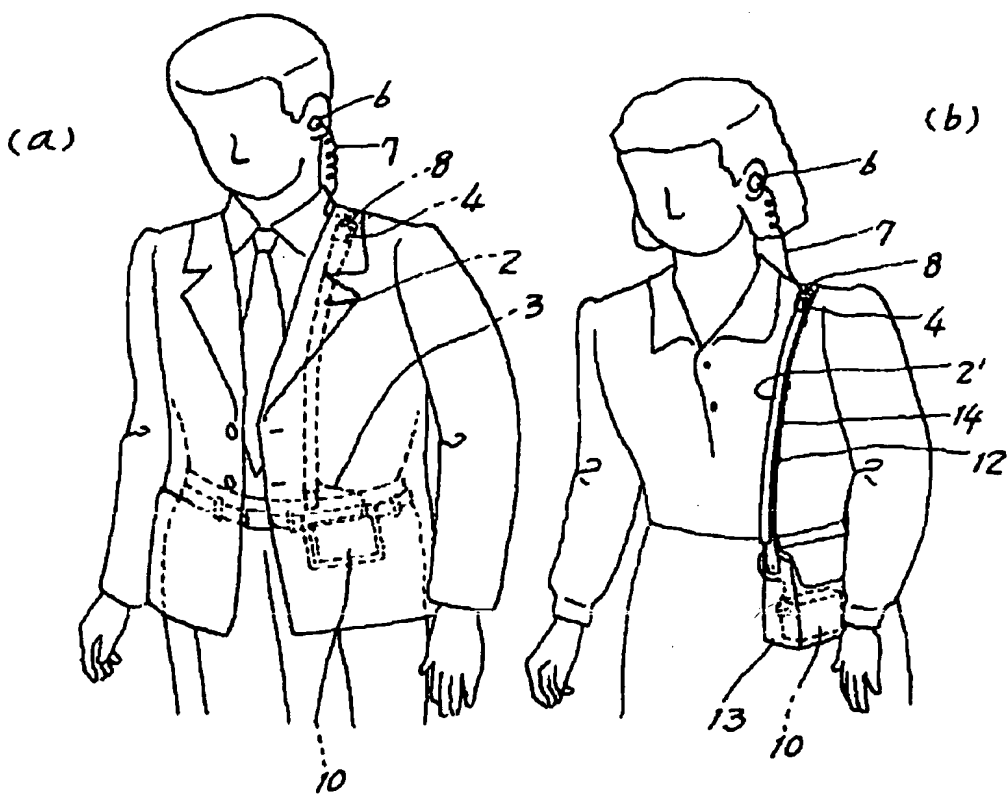
第5圖



663

実開 59-127276

第6圖



1164

実開 59-127276